

フォーラム子どもの権利研究 2011

プログラム

いま、子どもや若者が元気を失っています。子どもの権利条約総合研究所では、子どもの自己肯定感の低下が、子どもたちの能動的な活力を喪失させていく原因になっているのではないかと考えてきました。子どもの生きる意欲、学ぶ意欲、人とかかわり参加していく意欲、そのような人間として生きていくために欠かせない意欲を取り戻し、支えていくための実践や研究は求められている、といえないでしょうか。

今回は、そのような子どもの参加、活動意欲を高めていく地域の実践であり、子どもエンパワーメント条例でもある「子どもの権利条例」の役割、それとのかかわりでの学校における子ども支援、子どもの人権の現段階を明らかにし、日韓の比較検討を行ってみたいと思います。韓国では史上初めて、「児童・生徒人権条例」が京畿道で制定され注目されてきています。この条例のモデルとなったといわれている川崎市子どもの権利条例について、その10年の歩みを踏まえて検討してみたいと思います。

2日目は、子どもの自己肯定感、参加意欲、支援の現状などについて、日韓の共同調査の報告を受け、自己肯定感の総合的な検討をいっていききたいと思います。

子ども支援の実践的な研究を推進していくために、子どもの現場に携わっている多くの実践家、研究者、自治体関係者、大学関係者・学生など、この機会を大いに活用していただければ幸いです。

2011年1月25日

子どもの権利条約総合研究所

-
- 1 日時 2011年3月19日(土)～ 20日(日)
 - 2 会場 早稲田大学文学部 第1会議室
 - 3 主催 子どもの権利条約総合研究所
 - 4 賛同団体 未定

第1日 現代の学校と子どもの権利条例

コーディネーター 荒牧 重人 (山梨学院大学)

- 1 京畿道「児童・生徒人権条例」制定の意義と課題
講演 金 相坤 (京畿道教育監)
指定討論 (1) 京畿道「生徒人権条例」と学校現場
調整中 (京畿道関係者)
- 2 川崎市子どもの権利条例の10年と学校
報告 喜多 明人 (早稲田大学)
指定討論 (2) 川崎市子どもの権利条例と学校現場
田中 真喜男 (川崎市立藤崎小学校)

第2日 子どもの自己肯定感の総合的検討

コーディネーター 内田 塔子 (東洋大学)

- 1 子どもの自己肯定感研究の現状と課題 半田 勝久 (東京成徳大学)
ー自己肯定感調査と調査指標・手法の検討
- 2 子ども参加と支援に関する日韓共同調査の中間報告
 - ① 日本側 安部 芳絵 (早稲田大学)
 - ② 韓国側 金 享漢 (韓国・京畿大校)
- 3 子どもの自己肯定感と学校における権利救済 福田みのり (山口福祉文化大学)
- 4 子どもの自己肯定感と家庭・親支援 清水 冬樹 (旭川大学短期大学部)
- 5 マイノリティの子ども支援と自己肯定感 金光敏 (コリアNGOセンター)